

第141回気象記念日について
－「気象業務はいま2016」を刊行します－

平成28年6月1日（水）は、第141回気象記念日です。気象庁では、次の記念行事等を行います。

1. 第141回気象記念日式典を行います。式典の概要は別紙1－1、気象庁業績表彰受賞者は別紙1－2のとおりです。式典は報道機関に公開します（会場内での撮影が可能です）。
2. 「気象業務はいま2016」を刊行します。概要は別紙2－1のとおりです。

※ 気象記念日は、明治8年(1875年)6月1日に気象庁の前身である東京気象台において気象業務を開始したことを記念して、昭和17年(1942年)に制定されました。

本件問い合わせ先：電話 03-3212-8341

式典関係 気象庁総務部総務課（内線 2110）

表彰関係 気象庁総務部人事課（内線 2133）

刊行関係 気象庁総務部企画課（内線 2261）

第141回気象記念日行事予定

- | | | |
|---|------|---------------------------|
| 1 | 日 時 | 平成28年6月1日（水）11時00分～11時40分 |
| 2 | 場 所 | 気象庁講堂 |
| 3 | 式典次第 | |

開式の辞

国歌斉唱

気象庁長官式辞

国土交通大臣あいさつ

国土交通大臣表彰

気象庁長官表彰

永年勤続職員へのお祝いの言葉

被表彰職員総代答辞

閉式の辞

平成 2 8 年 6 月 1 日付

第 1 4 1 回「気象記念日」 気象庁業績表彰受賞者名簿

【国土交通大臣表彰】

1. 船舶（気象通報） 1 隻

気象業務に対する深い理解のもとに多年にわたり海上気象の観測通報を確実に励行し
気象業務の発展に寄与した功績

番号	被 表 彰 者		
	所 属	船 名	備 考
1	太洋日本汽船株式会社	いんでいあな はいう えい 殿	平成 2 5 年長官表彰

【気象庁長官表彰】

1. 気象行政の推進に寄与した功績（個人） 1 名

番号	被 表 彰 者	功 績 事 項
1	東京大学名誉教授 阿部 勝征 殿	地震防災対策強化地域判定会において会長および委員として多年にわたり地震予知業務の推進に寄与した功績

2. 気象行政の推進に寄与した功績（団体） 1 団体

番号	被 表 彰 者	功 績 事 項
1	東北コミュニティ放送協議会 会長 殿	気象知識及び防災知識の普及・啓発に取り組み住民の避難力向上につながるような風土・文化の醸成に貢献した功績

3. 委託観測所（個人） 3 名

多年にわたり地域気象観測所の委託観測業務に献身的に協力し気象業務に寄与した功績

番号	観測所名	被 表 彰 者
1	しんしゅうしんまち 信州新町	上原 正信 殿
2	かぎあな 鍵穴	森 嘉吉 殿
3	やまえ 山江	木下 久米雄 殿

4. 委託観測所（団体） 34団体

多年にわたり地域気象観測所の委託観測業務に献身的に協力し気象業務に寄与した功績

番号	観測所名	被 表 彰 者
1	せたな	檜山広域行政組合せたな消防署 職員会 殿
2	だけ 岳	弘前市立常盤野小中学校 殿
3	わしくら 鷺倉	有限会社鷺倉温泉高原旅館 殿
4	きたかた 喜多方	喜多方市水道事業 殿
5	かねやま 金山	金山町役場 殿
6	しうら 市浦	五所川原地区消防事務組合市浦消防署 殿
7	おおたわら 大田原	大田原市教育委員会スポーツ振興課 殿
8	い か り 五十里	東武興業株式会社 殿
9	かみさと み 上里見	高崎土木事務所榛名事業所 殿
10	かたしな 片品	片品村立片品中学校 殿
11	ぬ また 沼田	利根沼田広域消防本部 殿
12	みつみね 三峰	秩父市 殿
13	ところざわ 所沢	東京都水道局羽村取水管理事務所長 殿
14	よこしばひかり 横芝光	横芝光町役場 殿
15	さがみはらちゅうおう 相模原中央	相模原市消防局 殿
16	ひよし 日吉	慶應義塾高等学校 殿
17	あわしま 粟島	粟島浦村立粟島浦小中学校 殿
18	おおいずみ 大泉	北杜市長 殿
19	う え だ 上田	上田地域広域連合消防本部 殿

20	みっかび 三ヶ日	浜松市三ヶ日協働センター 殿
21	いなぶ 稲武	愛知県農業総合試験場山間農業研究所 殿
22	かにえ 蟹江	蟹江町消防署 殿
23	なかむら 中村	幡多中央消防組合四万十消防署 殿
24	みずほ 瑞穂	邑南町立瑞穂中学校 殿
25	さよう 佐用	西はりま消防組合佐用消防署 殿
26	なぎ 奈義	奈義町長 殿
27	むつより 睦寄	綾部市奥上林地区自治会連合会 殿
28	しわ 志和	東広島市役所志和出張所 殿
29	せきがね 関金	鳥取県立農業大学校 殿
30	いわくに 岩国	山口県立岩国高等学校 殿
31	やながわ 柳川	柳川市長 殿
32	くにみ 国見	国東市消防署国見出張所 殿
33	こうさ 甲佐	甲佐町立甲佐小学校 殿
34	こにや 古仁屋	海上自衛隊奄美基地分遣隊 殿

5. 委託観測所（航空） 1団体

多年にわたり航空気象観測業務を遂行し航空機の安全運航に寄与した功績

番号	観測所名	被表彰者
1	さど 佐渡航空気象観測所	佐渡地域振興局佐渡空港分室 殿

6. 船舶（気象通報） 1 隻

多年にわたり海上気象の観測通報を確実に励行し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被 表 彰 者	
	所 属	船 名
1	エム・オー・エル・エルエヌジー輸送株式会社	ENERGY PROGRESS 殿

7. 船舶（表層水温・海流通報） 2 隻

多年にわたり海洋の表層水温の観測通報に積極的に協力し気象業務に寄与した功績

番号	被 表 彰 者	
	所 属	船 名
1	国立研究開発法人水産研究・教育機構	陽光丸 殿
2	愛知県水産試験場	海幸丸 殿

8. 漁船 8 隻

海上気象の観測通報に積極的に協力し気象業務に寄与した功績

番号	被 表 彰 者	
	所 属	漁 船 名
1	東洋漁業株式会社	第三十一源福丸 殿
2	羽根田有限会社	第八十八勝栄丸 殿
3	神崎水産株式会社	第一幸栄丸 殿
4	有限会社孝洋水産	第五十八孝洋丸 殿
5	岩切水産有限会社	八号三代丸 殿
6	山田水産株式会社	第二十一山田丸 殿
7	地方独立行政法人青森県産業技術センター	開運丸 殿
8	青森県	青森丸 殿

「気象業務はいま 2016」の刊行について

気象庁では、気象庁の取組の現状と今後の展望など、気象業務の全体像について広く国民の皆様にご覧いただくことを目的として、「気象業務はいま」を毎年6月1日の気象記念日にあわせて刊行しています。

今年の「気象業務はいま 2016」の主な内容は次の通りです。構成については別紙 2 - 2をご覧ください。

○特集

気象庁の取組の中で特にスポットを当て内容を詳細に紹介するコーナーです。今回は昨年7月に交通政策審議会気象分科会から提言いただいた『『新たなステージ』に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方』の概要とこの提言を受けた気象庁の今後の取組を取り上げました。

提言では、平成26年8月の広島の高雨等を教訓として、5つの課題と対応の方向が示されており、その具体の対応策を紹介しています。

○トピックス

気象庁の最新の取組を紹介するコーナーで、今回は取組を大きく2つに分けて紹介しています。

一つは、「自然のシグナルをいち早く捉え、迅速にお伝えするために」と題し、火山の観測体制の充実と情報の改善、世界最先端の機能を有する静止気象衛星「ひまわり8号」の運用開始などの取組を紹介しています。なお、4月末までの「平成28年(2016年)熊本地震」への気象庁の取組についても紹介しています。

またもう一つは、「長期の監視から地球の今を知り、将来に備えるために」と題し、社会の関心の高いエルニーニョ現象と日本の天候への影響などについて紹介しています。

「気象業務はいま 2016」は、6月1日以降、全国の書店及び政府刊行物センターから注文販売で取り扱います。また、気象庁ホームページの「気象庁関連の刊行物・レポート」ページにも掲載します。

(<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html>)

「気象業務はいま 2016」の構成

○特集 交通政策審議会気象分科会提言を受けた今後の取組

～「新たなステージ」に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方～

- 1 はじめに
- 2 防災気象情報の更なる活用に向けた取組
- 3 「新たなステージ」に対応した防災気象情報の具体的な改善内容
- 4 気象観測・予測技術向上に向けた取り組み
- 5 おわりに

○トピックスⅠ 自然のシグナルをいち早く捉え、迅速にお伝えするために

- 1 平成 28 年（2016 年）熊本地震
- 2 火山の観測監視体制の充実と情報の改善
- 3 □永良部島の噴火
- 4 緊急速報メールによる特別警報の配信
- 5 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨等
- 6 静止気象衛星「ひまわり 8 号」の運用開始
- 7 日本版改良藤田スケールの策定と運用開始
- 8 緊急地震速報・津波警報の多言語辞書を作成

○トピックスⅡ 長期の監視から地球の今を知り、将来に備えるために

- 1 平成 27 年に発達したエルニーニョ現象と世界・日本の天候への影響
- 2 東経 137 度に沿った海洋観測 50 周年

○第 1 部 気象業務の現状と今後

- 1 章 国民の安全・安心を支える気象情報
- 2 章 地震・津波と火山に関する情報
- 3 章 地球環境に関する情
- 4 章 航空の安全などのための情報
- 5 章 民間の気象事業
- 6 章 住民への安全知識の普及啓発に関する取組

○第 2 部 気象業務を高度化するための研究・技術開発

- 1 章 大気・海洋に関する数値予報技術
- 2 章 新しい観測・予測技術
- 3 章 地震・津波、火山に関する技術開発
- 4 章 大学や研究機関と連携した研究・技術開発

○第 3 部 気象業務の国際協力と世界への貢献

- 1 章 世界気象機関（WMO）を通じた世界への貢献
- 2 章 国連教育科学文化機関（UNESCO）を通じた世界への貢献
- 3 章 国際民間航空機関（ICAO）を通じた世界への貢献
- 4 章 国際的な技術開発・研究計画との連携
- 5 章 開発途上国への人材育成支援・技術協力について

○第 4 部 最近の気象・地震・火山・地球環境の状況

- 1 章 気象災害、台風など
- 2 章 天候、異常気象など
- 3 章 地震活動
- 4 章 火山活動
- 5 章 黄砂、紫外線など

○参考資料

全国気象官署等一覧、用語集、索引